

ファクトシート

# クラウド・トークン・ フレームワーク



## あらゆる接続デバイスを デジタルコマースの 安全なチャネルに変換

クラウド・トークン・フレームワーク(CTF)により、決済エコシステム全体で、機密性の高い決済データの管理に伴うリスクを最小限に抑えることができます。CTFは、カード不介在(CNP)トークンを可能にし、デジタルコマースの新たな機会を解放し、決済イノベーションを加速します。CTFは、マルチデバイス決済の信頼性を高め、フリクションを減らし、アカウント乗っ取り不正を最小限に抑えることで、これを実現します。CTFは、利用者の本人確認/認証(ID&V)をデバイス・インテリジェンスと組み合わせることで、セキュリティを強化し、複数の決済体験やデバイスを介したCNP取引の承認率を高めるように設計されています。

## 考えられるメリット

### デバイス間の決済セキュリティを強化

ユーザーID&Vとデバイス・インテリジェンスを使用して、消費者、カード会員、関連デバイスを結び付け、リスク管理をより強化し、アカウント乗っ取り詐欺の防止を支援します。

### 信頼できるデバイスによる信頼性の向上

信頼できるデバイスを使用することで、フリクションを最小限に抑え、CNP取引の認証率を向上させ、優れたカスタマー・エクスペリエンスを実現することが可能です。

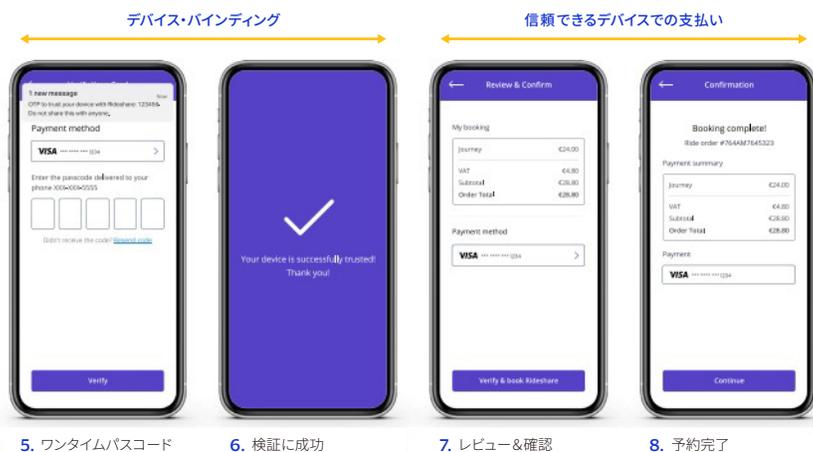
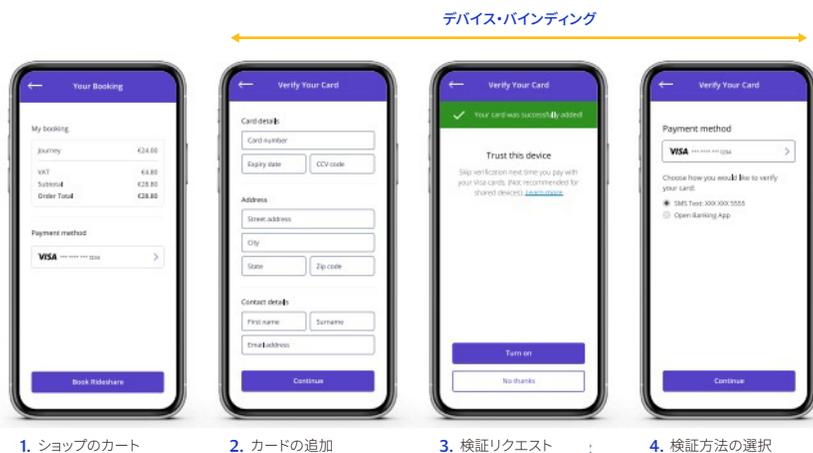
### 将来を見据えた決済

エンド・ツー・エンドで安全かつ拡張可能なトークン・ソリューションにより、デジタルコマースのユースケースを拡大し、ユーザー認証への総合的なアプローチを提供します。

# カスタマー・エクスペリエンス

## 信頼できるデバイスでのデバイス・バイディングと購入

加盟店のサイトやその他のトークンリエスターのサイト、またはアプリでは、カード会員が接続されたデバイスを選択し、「信頼できるデバイス」として登録することができます。これにより、カード会員は次回の支払い時に確認・認証プロセスを省略することができます。例として、ライドシェアサービスを予約する場合の仕組みを以下に示します。



1. カード会員が予約アイテムを確認し、チェックアウトに進む。
2. カード会員がクレジットカード情報と連絡先情報を入力。
3. アプリがカード会員に、今後の購入のためにそのデバイスを信頼できるものとして指定するための確認要求を求める。
4. 加盟店またはその他のトークンリエスターは、カード発行会社から得られるユーザー ID&V方法のリストを表示し、カード会員は希望するID&V方法を選択する。
5. カード会員は選択したID&V方法により検証を完了する。
6. 確認が完了すると、カード会員は、以後のトランザクションで自分のデバイスが「信頼できるデバイス」であることを確認するメッセージを受け取る。
7. 信頼されたデバイス上で、カード会員は予約の検証と確認を促される。
8. 確認が済むと、カード会員の取引は完了する。カード会員は、さらなるチェックを行うために必要なデバイス情報を受け取る。

## 特徴

### カード発行会社のステップアップ機能

ユーザー ID&Vを使用して、トークンリエスターの顧客とカード発行会社のカード会員の間に明確なリンクを確立します。

### ユニークで検証可能なデータ

ユーザーの信頼できるデバイスを取引用に検証し、カード発行会社用に検証済みデータを含めます。

### 複数の信頼できるデバイスとフリクションの低減

ユーザーが複数の信頼できるデバイスからトークン化されたアカウントに最小限のフリクションでアクセスできるようにし、信頼できるデバイスを認証要素として使用します。

### デバイス・バイディング

カード発行会社のID&Vとステップアップ認証により、トークンを複数の信頼できるデバイスに紐づけます。

### ユーザー認証

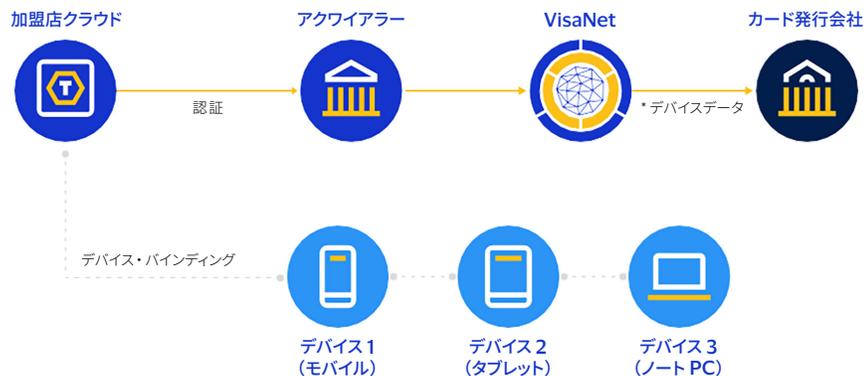
複数のデバイスから複数の認証要素とカード会員確認方法を取得・送信します。

### トークン請求者主導型 カード会員認証

必要なときにいつでも、支払認証情報のID&Vをカード発行会社に要求できます。

## クラウド・トークン・フレームワーク(CTF)によるCNPトークン化

クラウドトークンは、OS 内で複数のデバイスにまたがる単一のエクスペリエンスを可能にします。



\* 図2の説明は脚注参照

- ・ デバイス・バインディングでは、ユーザーのアカウントにプロビジョニングされたeコマーストークンまたはカード・オン・ファイル (CoF) トークンを、複数の信頼できるデバイスにバインドすることができる。
- ・ カード発行会社は、カード会員のリスクベース検証を行い、オプションでカード会員にステップアップ認証を要求することで、カード会員とトークンが特定のデバイスにバインドされていることを確認することができる。
- ・ 信頼されたデバイスから行われるカード提示不要 (CNP) 取引には、デバイスのデータ要素と多要素認証データが含まれるため、カード発行会社は、カード会員の検証を強化し、認証承認を向上、不正行為を軽減し、トークン管理全般を改善することができる。

## 詳細はこちら

さらに詳しい情報については、担当のVisa Account Executiveにお問い合わせいただくか、[こちらをクリック](#)してオンラインお問い合わせフォームにご記入ください。

### 図2の説明

この図は、カードを提示しないCNPのトークン化をCTFで実現するためのステップ・バイ・ステップのプロセスフローを示している。デバイス・バインディングの観点から、この図は、加盟店のクラウド環境でプロビジョニングされたeコマースまたはカード・オン・ファイル (CoF) トークンを、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなどの複数の信頼できるデバイスにバインドできるVASの機能を示している。認証の観点からは、加盟店側のクラウドからアクワイアラー、VisaNet を経由してカード発行会社までのフローが示されており、デバイス・バインディングとそれに続く取引のリスクベースの検証が可能になる。